



高原の風だより

2022(令和4)年12月 発行 <第24号>

～開田高原がより素敵な場所になるように～

坂口さん キルトで表現



坂口ゆう子さんの作品「開田高原 今・昔・そして…」

作品展示やステージ発表、体験コーナーなど

～開田高原文化祭～

開田公民館主催の開田高原文化祭が9月4日、開田小学校体育館で行われサークルの皆さんの作品展示やステージ発表などが行われた。小学生の夏休みの自由研究発表会などもあり、とても興味深く聞かせてもらった。また、体験コーナーでは押し花と茶道に挑戦して楽しむことができた。さまざまな作品展示がある中で、私の目を引いたのは大きなキルトの作品だった。これは坂口ゆう子さん(末川馬橋)が冬かけて作り上げた力作で多くの思いが込められている。(詳細は4ページの「町民登場」コーナー)

木曽町 御嶽山ビジターセンター完成

噴火災害の記録と記憶を後世へ

御嶽山の歴史などを映像と模型で紹介

2014（平成26）年9月27日、御嶽山が噴火。死者58人、行方不明者5人を出し戦後最大の噴火災害となった。あれから8年が過ぎ今年8月27日、「御嶽山を知り、火山を理解し、次世代につなげる」を基本理念とした御嶽山ビジターセンター（さとテラス三岳）が木曽町三岳の道の駅隣にオープンした。町が建設した建物は、木造平屋で面積はおおよそ500㎡。事業費は約5億円。センターには名古屋大学御嶽山火山研究施設が三岳支所から移転して入ったほか、御嶽山火山マイスターの活動拠点にもなる。さとテラス三岳は観光客や住民向けであるとともに、御嶽山の玄関口として登山者に山の情報を提供する総合窓口的な役割を担う。また、同日王滝村の田ノ原にもビジターセンター（やまテラス王滝）がオープンした。やまテラス王滝は、県が整備したもので主に登山者を対象としており冬期間は閉館する。



噴火の様子を伝えるパネル

町が建設した建物は、木造平屋で面積はおおよそ500㎡。事業費は約5億円。センターには名古屋大学御嶽山火山研究施設が三岳支所から移転して入ったほか、御嶽山火山マイスターの活動拠点にもなる。さとテラス三岳は観光客や住民向けであるとともに、御嶽山の玄関口として登山者に山の情報を提供する総合窓口的な役割を担う。また、同日王滝村の田ノ原にもビジターセンター（やまテラス王滝）がオープンした。やまテラス王滝は、県が整備したもので主に登山者を対象としており冬期間は閉館する。

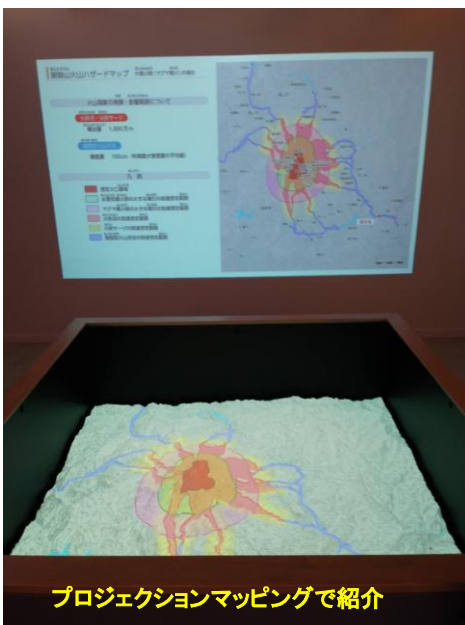
噴火警戒レベルなど最新の情報を発信 ～入口に電子掲示板設置～

ビジターセンターの目的は災害の記録や記憶の伝承、火山防災知識の普及啓発など多岐にわたるが、とりわけ重要なことは登山者に火山や登山道に関して最新の情報発信を行うことだ。噴火警戒レベルはどうなっているのか、登山道の状況はどうか・・・このためセンター入口の壁には電子掲示板が設置され、噴火警戒レベルなどの最新情報を確認することができるようになっている。現在は、噴火警戒レベル1

～活火山であることに留意～「状況に応じて火口内への立入規制等」と表示されている。また、火山の状況に関する解説情報なども細かく記され、王滝村滝越からのライブカメラ映像も見ることができる。



電子掲示板



プロジェクションマッピングで紹介

御嶽山の成り立ちや火山活動の歴史

～パネルや模型、最新の映像で紹介～

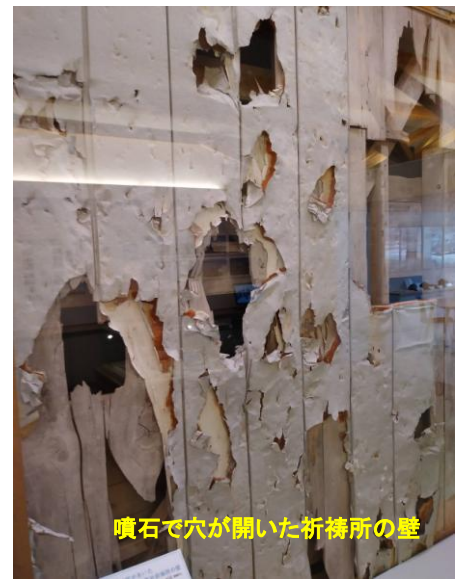
御嶽山の成り立ちや火山活動の歴史をはじめ、木曽地域に多くの恵みをもたらしている御嶽山の美しい自然景観など、その魅力をパネルや模型、プロジェクションマッピングなどの最新映像で紹介している。長野県西部地震や8年前の噴火の概要なども模型への投影画像により見ることができる。多目的室には体験コーナーがあり、火山のメカニズムをカードゲームなどで楽しく学ぶことができる。

祈禱所の壁の一部を展示 ～痕跡が残る衣類なども～



火山灰にまみれたメガネなど

噴火当日の剣ヶ峰、八丁だるみの様子や救助の様子など噴火時の概要をパネルや映像を使って紹介している。噴石で穴が開いた御嶽神社奥社祈禱所の壁などのほか、犠牲者遺族の協力により噴火の痕跡が残る火山灰にまみれた時計や衣類、噴石でへこんだステンレス製カップなども展示。噴石の威力や怖さなどを伝えている。



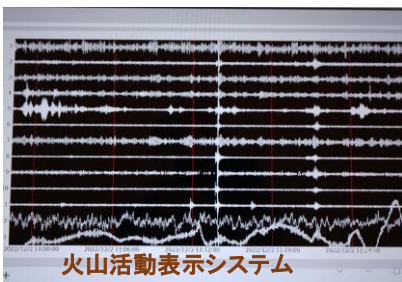
噴石で穴が開いた祈禱所の壁

千バニアンの地層の剥ぎ取り ～三岳の地層標本も～

地質年代「千バニアン（千葉時代）」認定の決め手となった御嶽山の火山灰層がくっきりと確認できる地層標本も展示されている。これは千葉県市原市の地層を採取した標本で、長さは3m、幅1mほどで、茨城大学（水戸市）から譲り受けたもの。約77万年前の御嶽山の火山灰層が積もった「白尾（びやくび）火山灰層」が白い線のようにくっきりと確認できる。ちなみに御嶽山と市原市は約250kmも離れている。

今年7月には三岳でも御嶽山大噴火による火山灰層を採取。その標本は洗浄や乾燥、固定材の塗布等の工程を施し展示され、地層がくっきりと立体的に見て取れる。

名古屋大学の火山研究施設 ～火山活動の評価能力向上など目指す～



火山活動表示システム

8年前の御嶽山噴火において、地元自治体と専門家との連絡体制が十分でなかったことなどが課題になった。そこで県や地元自治体が火山研究施設の必要性を強く希望する中で、名古屋大学がそれを受ける形で2017（平成29）年7月、三岳支所に御嶽山火山研究施設を開設。そして今回、ビジターセンターが開館したことから、研究施設も支所から同センターへ移動した。施設入口の壁には火山活動表示システムにより、御嶽山周辺の観測点で得られたデータをリアルタイムに表示している。

研究施設では最新の火山研究を通じて御嶽山火山活動の評価能力や地域防災力の向上、火山防災人材の育成などを目指して取り組んでいる。

詳しくは名古屋大学御嶽山火山研究施設のホームページへ。（右のQRコード）



予想を上回る「さとテラス三岳」の入館者 ～道の駅と隣り合う立地が影響～

2つの御嶽山ビジターセンターが完成して早3か月。それぞれの入館者数はどうなのか。さとテラス三岳は11月末までで6,963人。やまテラス王滝は、10月末までで2,157人。三岳は集落内にあり道の駅と隣り合う立地が影響したとみえ、町が予想した以上の入り込みになっている。今後、企画展示や学習交流など施設の魅力を高める工夫が求められる。（注）8月は開館から5日間。10月の王滝は閉館の23日まで

ビジターセンターの入館者数（単位：人）

ビジターセンター	8月	9月	10月	11月
さとテラス三岳	635	2,528	2,354	1,446
やまテラス王滝	312	878	967	—

（資料：木曽おんたけ観光局）

「御嶽山ビジターセンター（さとテラス三岳）」のご案内

場 所：〒397-0101 木曽町三岳 10491-12

開館時間：午前9時～午後4時

休館日：年末年始

入館料：無料

駐車場：大型車 12台、普通車 47台

Wi-Fi：有り

電 話：0264-24-0197

F A X：0264-24-0103



町民登場

坂口 ゆう子 さん (67歳・開田高原末川) ①

今回、「ご長寿列伝」はお休みしました。「町民登場」コーナーを設けましたので、一人でも多くの皆さんを紹介出来たらと思います。今回は9月の開田高原文化祭でキルトの大作を展示した坂口ゆう子さんを紹介します。

(注)キルト：表地と裏地の間に薄い綿を入れ、重ねた状態で刺し縫い一つの作品にまとめたもの。



開田高原 発展の願いを込め ～二冬かけたキルトの力作～

大田市美麻出身のゆう子さんは、同じ小学校で教員をしていたことがご縁で昭和55年に純一さんと結婚。16年ほど前、純一さんの両親が高齢になったことや純一さんが退職したことなどもあり、夫の実家のある開田高原末川に移り住んだ。

3年ほど前からコロナの影響で子どもたちの帰省もままならず、自分たちも出かけることができない状態が続いた。そんな時にテレビで見たのがキルトの番組だった。その魅力にひかれた坂口さんは、さっそく本を購入し、キルト作家の先生の個展を見るために一人で京都までも出かけた。「写真や絵画はダメだが、キルトだったらいけるかも」とキルトで大好きな開田高原を描きたいと思いついた。親戚から話を聞いたり、古い写真を見たりしながらかつての風景に思いをはせ、3年ほど前から作品作りをスタート。主に外仕事ができない冬場を中心に取り組み、二冬かけてようやく今年の春に完成にこぎつけた。



馬の世話をする村人 (作品の一部を拡大)

「昔、見渡す限り草刈り場だった頃は、どこからでも御嶽山が見られたという。どんなに美しく清々しい景色だったことか。今となっては見る事ができないその風景が心の中に広がりました」としみじみ語るゆう子さん。

縦、横およそ180センチの大きな作品には、御嶽山や麓の放牧場で草を食む木曾馬、ソバ畑、白樺林、ブルーベリーなどが描かれている。そのほか石置き屋根の民家や馬の世話をする村人、水車小屋、ハゼ、馬頭観音、音楽堂やゴルフ場など開田高原の今と昔の様子が細かく表現されている。

たとえ時が流れ、時代が変わってもいつまでも大切にしたいふるさとの風景。「開田高原が大好きだから、これからも発展してほしい。そんな願いを込めて作りました」とさわやかな笑顔が広がった。

私の本棚

『ヘルンとセツ』 Lafcadio Hearn & Setsu Koizumi

(田淵 久美子 著・NHK出版)

義仲・巴ら勇士讃える会の全国連携木曾大会が9月、木曾町で行われた。その際に脚本家で作家の田淵久美子さんが「女性を主人公とする大河ドラマを二作品手掛けた歴史物語の秘話」～もし巴御前を描くなら～と題して基調講演。田淵さんは多数のテレビドラマのほか映画や舞台、ミュージカル、落語、狂言、オペラなども執筆。大河ドラマ『篤姫』は空前の大ヒット。その田淵さんの最新作・小説が本著。講演後に、さっそく購入し一気に読み終えた。明治23年、ニューヨークから来た作家ラフカディオ・ハーン(ヘルン)。武家の娘として生まれるが、明治維新により困窮の底に沈んでいたセツ。二人の宿縁の出会いが、さまざまなドラマを生む。



編集後記

今年も余すところわずかになった。それにしても月日の流れが早く、アッという間に過ぎ去っていく。これも毎日が健康だという証か。新しい年が皆さんにとって素晴らしい年になりますように。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com



Facebook